

## 平成29年度トピックス

### ①世界自閉症啓発デー2017

桜が満開となった4月8日（土）、「たいせつなことをあなたにきちんとつたえたい～発達障害のこと～」をテーマに全社協・灘尾ホールにて開催されました。シンポジウム(1)「地域作りのリーダーの思い」では、兵庫県尼崎市市長、静岡県藤枝市長、沖縄県中小企業家同友会から、児童期の発達支援に関する施策や障害のある方への就労支援の取組が紹介されました。

シンポジウム(2)「効果的な伝え方の工夫（マスメディア）」では、報道関係者と一般社団法人代表より、障害のある方の特性を多くの人に適切に理解してもらうためのマスメディアの在り方について意見交換が行われました。

シンポジウム(3)「身近な人の理解」では、発達障害のある御本人の心情や家族としての思いを綴った作文の紹介、一緒に生活する中でお互い思っていることについての話しがありました。また、会場には自閉症のある方の作品や応援メッセージも展示されました。本研究所では、今後も様々なイベントや啓発事業を通して、自閉症をはじめとする発達障害のある方への支援がより一層充実するよう、情報普及に努めてまいります。

○世界自閉症啓発デー公式サイト→

<http://www.worldautismawarenessday.jp/>



写真1 シンポジウムの様子

### ②ブラインドサッカー体験会 in NISE

4月22日（土）に本研究所体育館において、「ブラインドサッカー体験会 in NISE」を開催しました。当日は、地域のサッカーチームに所属する子ども達を中心に、定員を超える95名の方にご参加いただきました。

体験会では、冒頭に日本ブラインドサッカー協会の講師よりルールや言葉での伝え方に関する説明があり、講師の指導の下、参加者がアイマスクを着用し、パスやシュートなど基本的な動作についての練習を行った後、最後にチーム対抗戦が行われました。

帰り際に、また体験したいという子ども達の声が多かったことがとても印象的でした。

なお、本研究所体育館やフットサルコート等の体育施設は、外部の方々にもご利用頂けますので、機会がありましたら是非ご活用ください。



写真2 アイマスクを装着し体験する参加者

### ③高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会

5月8日及び9日の2日間、標記第1回指導者研究協議会（3回連続型）を本研究所において開催しました。本研究協議会は、次年度から実施される「高校通級（高等学校における『通級による指導』）」の円滑な実施に向けて、指導的立場にある教職員による研究協議等を通じ、担当者の専門性の向上及び高

校通級の理解推進を図ることを目的として、新たに開催したものです。第1回は、全国から担当指導主事や高校等教員100名が受講しました。

1日目は、文部科学省による最新の政策動向「高校通級の導入に向けての準備について」の説明に続いて、本研究所による講義「高等学校における特別支援教育の充実と通級による指導の役割」と15班に分かれての班別協議を行いました。

2日目は、1コース(指導主事)、2コース(教員)で「『高校通級』に係る教育委員会(学校)の取組について」の受講者からの取組発表が行われました。さらに、班別協議として各受講者から提出のレポートに基づく報告や最新の情報等について活発な協議・意見交換がなされました。

なお、本研究協議会では、田中・庄司両特別支援教育調査官に、両日参画いただきました。



写真3 田中調査官による説明

#### ④平成29年度特別支援教育におけるICT活用に関する指導者研究協議会

7月20日及び21日の2日間、標記指導者研究協議会を本研究所において開催しました。研究協議会は、インクルーシブ教育システムの充実を目指し、障害のある幼児児童生徒に適切な指導・支援を行う上で必要なICT活用について、指導的立場にある教職員による研究協議等を通じ、各地域の特別支援教育におけるICT活用の推進を図ることを目的としています。本年度は、全国から特別支援学校、小・中学校等教員や指導主事等80名が受講しました。

1日目は、文部科学省による最新の政策動向「新学習指導要領を踏まえたICT活用」の説明に続いて、

研究紹介として本研究所で行われた「タブレット端末等ICT機器を活用した指導の専門性」に関する研究の発表を行いました。

2日目は、1コース(指導主事)、2コース(教員)に分かれて「ICT活用の推進に向けた教育委員会(学校)の取組について」のテーマにより、ICT活用実践演習室において各班の演習を行うとともに、大阪市教育委員会の平岡昌樹総括指導主事と、長野県稲荷山養護学校の青木高光教諭より特色ある取組の発表が行われました。さらに、計11班に分かれて各受講者から提出されたレポートに基づく報告や最新の情報等について、熱心な協議・意見交換がなされました。

#### ⑤平成29年度特別支援学校寄宿舎指導実践協議会

7月27日(木)、本研究所において平成29年度特別支援学校寄宿舎指導実践協議会を、全国特別支援学校長会(以下、全特長)との共催により開催しました。寄宿舎指導員の全国レベルでの研修会、情報交換の場は非常に少なく、各都道府県教育委員会等から推薦された62名の寄宿舎指導員等が参加しました。

まず、午前中は文部科学省による「特別支援教育の動向、施策等について」と題した行政説明、続いて、全特長副会長である東京都立文京盲学校長桑山一也氏による「多様な教育的ニーズに応じる寄宿舎指導の在り方～私だからできる、とっておきの方法～」と題した基調講演を行いました。この中では、先頃告示された新学習指導要領についても寄宿舎指導に関連付けて説明されました。

午後からは、視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育・病弱教育の各障害種に分かれて部会別協議を行いました。寄宿舎生の多様化(障害の重度・重複化、年齢幅)、入舎生数の減少、避難訓練の実施方法、寄宿舎だからこそできる指導、寄宿舎指導員が日頃抱えている課題やその工夫などが協議されました。

#### ⑥平成29年度 特別支援学校「体育・スポーツ」実践指導者協議会

2020年のオリンピック・パラリンピックの開催や、障害者の生涯学習の推進が求められる中、学校教育

における授業や部活動等を通じて、幼児児童生徒の体育・スポーツ活動のさらなる充実が期待されています。当研究所では、特別支援学校教員の体育・スポーツに関する指導力向上を目指した新規事業として、8月18日（金）に標記協議会を全国特別支援学校長会との共催で開催しました。

午前中は、障害者スポーツに関する行政説明や特別支援学校の体育・スポーツの指導に関する調査報告や講演、また2カ所の自治体・学校の実践状況について報告がありました。午後は、「ポッチャ」を通じた実践交流を行い、練習の進め方やコーチング等について学びました。参加者からは、多岐にわたる内容の情報を得ることができ、日々の実践に生かしていきたいといった感想が多数寄せられ、好評のうちに終了しました。



写真4 ポッチャによる実践交流

#### ⑦平成29年度研究所（NISE）公開

11月11日（土）、「つかめ情報！がっつり体験！つながる特総研！」というテーマで平成29年度研究所公開を開催し、地域の方を中心に多くの方にご参加いただきました。

昨年度に引き続き、障害種ごとの体験型展示スペースを対象としたスタンプラリーを実施し、家族連れを中心に多くの方が台紙を持って、各展示スペースでオリジナルスタンプを押しながら所内を巡る様子が見られました。

その他、渡辺元智氏（横浜高校野球部前監督）による講演及び穴戸理事長との対談や特別支援教育の視点からの授業づくり体験、障害者スポーツ体験として車椅子バスケットボールの体験会、昨年度好評

でありました筑波大学附属視覚特別支援学校の生徒と教員による「あん摩マッサージ」体験など幅広い内容の催しを行いました。

さらに新たな試みとして、ホスピタル・クラウン（道化師）によるパフォーマンスや白杖の妖精「つえぼん」が登場し、点字ブロックに関する啓発を行ったり、障害のある子どももいない子どもも受入れ可能な託児コーナーを設置したりしました。

また、開催に当たり、地元の横須賀市立横須賀総合高等学校の生徒8名にもボランティアとしてご参加いただくなど、多くの関係者の方々にご協力いただきました。

当日は天候も回復し、昨年度の2倍以上の919名の方々にお越しいただきました。特に子ども達が多かったこともあり、どの会場も大変活気があって、普段の研究所とは異なり、終始賑やかな雰囲気に包まれていました。



写真5 クラウンとつえぼん

#### ⑧平成29年度交流及び共同学習推進指導者研究協議会

11月16日及び17日の2日間、交流及び共同学習推進指導者研究協議会を本研究所において開催しました。

本研究協議会は、インクルーシブ教育システムの充実をめざし、各都道府県等において障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒との交流及び共同学習を推進する立場にある教職員による研究協議等を通じ、各地域における交流及び共同学習と障害の理解推進に資することを目的として、毎年開催しているものです。本年度は、全国から特別支援学

校、小・中学校等教員や指導主事等73名が受講しました。

1日目は、文部科学省による最新の政策動向「交流及び共同学習をめぐる現状と課題」の説明に続いて、研究所から「地域実践研究『交流及び共同学習の推進に関する研究』平成28・29年度中間報告」の研究紹介を行いました。その後、特色ある取組として、高知県教育委員会から「居住地校交流推進に向けての市町村との連携について」、北海道名寄市立名寄西小学校からは「小学校における交流及び共同学習を支える環境づくりと学校づくり」という内容で発表が行われました。

2日目は、3分科会4班に分かれ、研究協議が行われました。第一分科会では「交流及び共同学習を推進する上での学習活動の工夫」、第二分科会では「居住地における幼児児童生徒の交流及び共同学習の推進」、第三分科会では「交流及び共同学習を推進する上での行政的取組」をテーマに各受講者のレポートに基づく報告や最新の情報について活発に協議がなされました。最後に、各班の協議内容を報告し合い、文部科学省の萩庭特別支援教育調査官からの指導・助言をいただきました。

### ⑨平成29年度国立特別支援教育総合研究所インクルーシブ教育システム普及セミナー（九州・沖縄地区及び、中国・四国地区）

本普及セミナーは、本研究所のインクルーシブ教育システム推進センターの活動内容や、各地で実施されているインクルーシブ教育システム構築に向けての取組を、より多くの方に知っていただくことを目的としております。今年度は、九州・沖縄地区及び、中国・四国地区を対象に行いました。

九州・沖縄地区では、沖縄県教育委員会との共催で、平成29年12月16日（土）に、中国・四国地区では、岡山県教育委員会との共催で、平成29年12月17日（日）に開催しました。両地区とも、100名を越える方々にご参加いただきました。

各地区のセミナーでは、第1部本研究所の活動内容の報告、第2部各地区における取組報告という内容でした。

沖縄県では、読谷村立古堅小学校の崎濱朋子校長

先生から、「ともに楽しみ学び育つ教育実践」及び、琉球大学の城間園子先生から「沖縄県におけるインクルーシブ教育システム構築の現状及び課題」についてご報告をいただきました。

岡山県では、津山市立北小小学校の吉田英生校長先生から、「センター的機能や通級指導教室の充実」、岡山県特別支援教育専門家チーム員の大岡和子先生から、「就学前の発達支援事業」及び、勝央町立勝間田小学校の岡部雅弘先生から、「通常の学級における特別支援教育ブロックリーダー活用事業」について、ご報告をいただきました。

各地区の普及セミナーの参加者からは、「インクルーシブ教育システムの現状、これから求められる事がとてもわかりやすかった」、「すぐ取り組める事例もあり、学校全体としてできるところから取り組んでいきたいと思う」等、多くの感想が寄せられました。

本普及セミナーの実施に当たっては、沖縄県教育委員会や岡山県教育委員会をはじめ多くの方にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。当日の様子については、今後本研究所 Web サイトでも紹介する予定ですので、ご覧いただければ幸いです。



写真6 中国・四国地区（岡山）会場での様子

### ⑩第3回 NISE 特別支援教育国際シンポジウム

本研究所では1月20日（土）、東京都千代田区の一橋講堂にて「第3回 NISE 特別支援教育国際シンポジウム」を開催しました。当日は、全国から230名を超える方にご参加いただきました。

本年度は、「インクルーシブ教育システムの推進－日英の取組の現状から、今後を展望する－」という

テーマで、イギリス（イングランド）の通常の学校や特別学校での障害のある子どもへの指導・支援の実際についての本研究所海外派遣研究員による実地調査結果報告及び本研究所のインクルーシブ教育システムに関する研究紹介を行いました。その後、基調講演としてイギリス・リーズ大学スーザン・ピアソン博士から「インクルーシブ教育に向けた道のり」と題して、イギリスの取組をご紹介いただきました。ディスカッションでは、広島大学大学院川合紀宗教授に指定討論者として加わっていただき、当事者の願い（アスピレーション）を軸として、合意形成への理解を深めました。

今後も本研究所は引き続き国際シンポジウムを開催し、インクルーシブ教育システムに関する海外の動向について、情報収集、発信に努めていきたいと存じます。



写真7 講演するスーザン・ピアソン博士

### ⑩世界自閉症啓発デー in よこすか

平成29年度障害者週間キャンペーン YOKOSUKAの一環として、1月24日（水）横須賀市生涯学習センターまなびかんにて、「知ろう、つながろう ～自閉症のある子供が学びやすい学校や暮らしやすい社会をめざして～」をテーマに開催しました。本年度は、教員研修とワークショップの二部構成としました。教員研修では、「自閉症児の教育で大切なこと」について横須賀市内の学校の特別支援教育コーディネーター等の先生方が研修しました。ワークショップでは、教材教具の紹介、心理的疑似体験、研修講義の視聴、本研究所の研究紹介の他、筑波大学附属久里浜特別支援学校及び横須賀市内特別支援学級の

作品展示等、横須賀市立横須賀総合高等学校の福祉の授業の紹介と同校生徒による自閉症に関する研究発表を行いました。保護者や民生委員・児童委員の皆さんなど、たくさんの方々にご参加をいただきました。心より感謝申し上げます。

なお、本イベントは、本研究所と筑波大学附属久里浜特別支援学校、横須賀地区自閉症児・者親の会、横須賀市教育委員会との共催で実施しました。



写真8 高校生による研究発表

### ⑪平成29年度地域実践研究フォーラム

地域実践研究フォーラムは、本研究所の地域実践研究事業に参画している都道府県市において、地域実践研究の成果を速やかに普及し、インクルーシブ教育システム構築の推進に資することを目的に行っています。平成29年度は指定研究協力地域である青森県、埼玉県、千葉県、静岡県、長野県、和歌山県、奈良県にて開催しました。

各県で行われました地域実践研究フォーラムの概要は次のとおりです。

青森県、埼玉県、千葉県は「インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究」に参画しました。教員研修や高等学校の取り組みの現状の研究報告を行い、これからの校内外における教員研修システムや学校体制づくりの在り方を考えました。和歌山県と奈良県は「地域におけるインクルーシブ教育システム構築に関する研究」に取り組みました。地域における学校間連携の現状や個別の教育支援計画の活用状況等の研究報告を行い、インクルーシブ教育システム構築に向けた地域の体制整備について理解を深めました。静岡県は「交流及び共同学習の推進に関する研究」に参画しました。静岡県教育委員

会指定による特別支援学校の研究成果と地域実践研究における教育委員会及び小学校への訪問調査の研究報告を行い、今後の交流及び共同学習の具体的な進め方について考えました。長野県は「教材教具の活用と評価に関する研究」に取り組みました。長野県内の特別支援教育における ICT 機器の活用の現状と取組に関する調査、及び ICT 機器の活用の実際に関する研究報告を行い、学校における ICT 機器の更なる普及を考えました。

各県において、特別支援学校、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校の教員、県教育委員会および市町村教育委員会の職員などおよそ60人から300人の方々が参加し、熱心に研究報告を聞くとともに活発な質疑応答も行われました。地域実践研究フォーラム終了後の参加者アンケートからは、本研究所周り及び地域実践研究事業に対する期待や要望が多く寄せられました。



写真9 会場風景

さらなる充実の視点から一、シンポジウム「新学習指導要領に関する、多様な学びの場における取組や課題について」、そして、二日目には、研究所の研究報告（基幹研究と地域実践研究）、発達障害の理解啓発セミナー及び教材等の展示、演習を含めた支援機器等展示会を実施しました。

最終的に、811名の参加があり、活発に協議を行うなど、無事に終了することができました。なお、幼小中高の教員の参加は229名と例年に比べると多くの方に参加頂きました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

当日の内容や様子については、下記の Web サイトにて掲載しますので、ご覧ください。

なお、次年度は、諸事情により会場の変更を予定しています。充実したセミナーとなるように企画・運営を行いますので、メルマガ、ホームページ等でご確認ください。

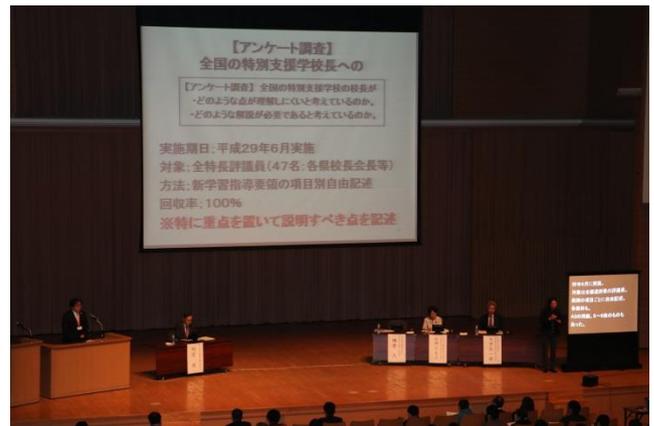


写真10 シンポジウムの様子

### ⑬平成29年度国立特別支援教育総合研究所セミナー

本研究所では、中期目標「特別支援教育に関する教育現場等関係機関との情報共有及び研究成果の普及を図る」ために、研究所セミナーを毎年度開催しています。今年度のテーマは「インクルーシブ教育システムの推進～多様な学びの場における特別支援教育の役割～」とし、平成30年2月16日（金）、17日（土）の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場として実施しました。

初日は、行政説明の後、基調講演「新学習指導要領等を踏まえた教育の展開ー特別支援教育の推進と



写真11 タブレット端末を用いた教材作成